

令和3年度病害虫発生予察予報第6号(9月)

令和3年9月3日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲(普通期稲)	いもち病(穂いもち) ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	<u>多(県下全域)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(東、西) やや少(県下全域) <u>多(東、中央、中西)</u> 、やや少(西) 平年並(中西)、やや少(中央)、少(東、西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東、西) やや少(中西)、少(東、中央、西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東、中央、中西)</u>
かんきつ類(温州みかん)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u>
かんきつ類(中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	平年並(東、西)、少(中央、中西) <u>多(東、中央、中西)</u> 、やや少(西) やや少(西)、少(東、中央、中西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東)、少(西)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報（高松地方気象台 8月26日発表）

<予想される向こう1か月の天候>

気温、降水量および日照時間は、ほぼ平年並みでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、平年並の確率40%です。降水量は、多い確率40%です。

週別の気温では、1週目および2週目は平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	40	30
		降水量	30	30	40
		日照時間	40	30	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		30	50	20
3～4週目		30	40	30

<予報の対象期間>

1ヶ月：8月28日（土）～9月27日（月）

1週目：8月28日（土）～9月3日（金）

2週目：9月4日（土）～9月10日（金）

3～4週目：9月11日（土）～9月24日（金）

II 病害虫発生予想

1 水稻（普通期稲）の病害虫

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1)穂いもちは、8月の調査では、出穂時期が平年よりも遅かったために、いずれの地域でも発生が見られなかった。しかし、葉いもちは、県下全域で発生面積が平年よりも多く、発生程度は県東部で平年よりも高く、西部ではやや高く、中央部および中西部では平年並であった。

(2)9月の降水量はほぼ平年並と予想されていることから、感染に好適な条件となった場合には急激に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)QoI剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて1回とする。

2) ごま葉枯病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部および西部を除いた地域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発生程度は、県中西部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) 登熟が進むと肥切れとなるため、発生地域を中心に発生が増加するとともに、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では薬剤防除を行う。

3) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年よりも少なく、発生程度も平年並以下であった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加するが、平年よりもやや少ない程度に留まると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪くなることがあるので、薬剤防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部、中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部および中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、西部で少なかった。発生程度は、県東部でやや高く、中央部および中西部で平年並、西部で低かった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫による直接被害は少ないが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

5) セジロウンカ

予 想 発生量：平年並（中西部）、やや少（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部および西部では少なかった。発生程度は県中央部で平年よりもやや高かったが、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) セジロウンカはほ場への定着性が低く、出穂期以降はほ場から離脱するため、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降に吸汁されると黒点米に似た被害粒が発生することがあるので、発生に注意し、高密度の場合には防除する。

6) トビイロウンカ

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県中央部および中西部で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部でやや少なかった。発生程度は、いずれも平年並以下であった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。発生が多かった県中西部では坪枯れなどの被害の発生が予想される。発生が見られなかった地域でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 株元に寄生するので、薬剤が株元に十分かかるように防除する。

7) コブノメイガ

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（東部、中央部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県中西部で発生が見られたが、発生面積は平年よりも少なく、発生程度も低かった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加し、発生が見られなかった地域でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

8) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多（西部）、やや多（東部、中央部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で多く、その他の地域は平年並であった。ほ場当たりの発生虫数は、県中央部で平年よりもやや多かったが、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、出穂10日後頃、およびその5～7日後に防除する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤（ネオニコチノイド剤等）を用いる。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 9月の気温、降水量はほぼ平年並と予想されており、また、時期的にも果実の感染リスクが低いことから大幅な発生の増加はないと考えられるものの、現在の多発生の状態で推移すると予想される。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発生程度は低かった。
- (2) 9月の降水量はほぼ平年並と予想されており、大幅な発生の増加はないと考えられるものの、現在の多発生の状態で推移すると予想される。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は低かった。
- (2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：平年並（東部、西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では、県東部、西部で発生が見られた。いずれも発生面積、発生程度ともに平年並であった。

(2) 9月の降水量はほぼ平年並と予想されており、大幅な発生の増加はないと考えられる。また、時期的にも果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと予想される。

対 策

(1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（東部、中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中央部および中西部で平年よりも多く、西部でやや少なかった。発生程度は県中央部でやや高く、その他の地域は平年並以下であった。

(2) 9月の降水量はほぼ平年並と予想されていることから、大幅な発生の増加はなく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：やや少（西部）、少（東部、中央部、中西部）

根 拠

(1) 8月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりもやや少なく、東部で少なかった。発生程度はいずれも平年並であった。

(2) 9月の降水量はほぼ平年並と予想されていることから、台風の襲来がない限り大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

(1) 8月の調査では、県西部以外の地域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部は少なかった。発生程度はいずれもやや低～低であった。

(2) 9月の気温はほぼ平年並と予想されており、本虫の増殖に好適な時期を迎えるため、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.